

JAAF
SAPPORO

一般財団法人 札幌陸上競技協会



札幌陸協情報

発行：一般財団法人札幌陸上競技協会広報委員会

令和元年12月8日発行

2019年度を振り返って

会長 志田 幸雄

今年も災害の多い年でした。犠牲、被害になられた方々に心からご冥福をお祈り申し上げますと共に、関係者の皆様の一日も早い復旧と日常生活が戻ることを願っております。

さて、今年も40を超える当協会事業を滞りなく終えることができました。これも支えて頂きました、会員各位、滋慶学園グループ、日本栄養食品株式会社、さっぽろ健康スポーツ財団、中体連、高体連、学連、マスターズ、身障者協会の各団体のご支援・ご協力に敬意を表しますとともに、大勢の協賛各社の皆様、関係団体のご厚情、ご支援に深く感謝とお礼を申し上げます。

「札幌からオリンピック選手を」合言葉に、選手強化の為に基金活動し3年目に入りました。指導者、選手へは、世界陸上、日本選手権、国体、全日本学生、全国高校、全国中学大会へ資金援助ができました、ご協力いただきました企業(35社)・個人(21人)の方々に重ねてお礼申し上げます。

指導者、審判員の研鑽により今年は、当協会所属選手であります城山正太郎選手(ゼンリン札幌)が男子走幅跳で歴史に残る8m40を跳び、27年ぶりに日本新記録を樹立しました。その結果から世界陸上選手権・東京オリンピックの参加標準記録を突破し、世界陸上大会では見事決勝に進出し11位となりました。日本選手権では、御家瀬緑選手(恵庭北高校)女子100m見事高校生1位となり、実に29年ぶりの高校生優勝となりました。女子走高跳でも京谷萌子選手(北海道ハイテクAC)が第2位で入賞し、ベテランとしての活躍は見事です。沖縄インターハイでは女子100m御家瀬緑選手が29年ぶりに連覇を達成し、石堂陽奈(立命館慶祥高校)とワンツーでの表彰台に登り大活躍でした。女子200mでは、石堂陽奈選手が高校歴代5位、高校2年歴代2位の記録で優勝し、今後の更なる記録の更新が期待されます。全日本中学選手権の女子1500mで第4位となった上西彩未選手(札幌新川中)は、北海道新記録で入賞致しました。正月の伝統ある箱根駅伝では、優勝しました東海大学の小松陽平選手(東海大学付属札幌高校出身)の活躍は見事で、優勝の原動力とMVPに選出される活躍でした。

今年の世界陸上大会において、当協会に関係ある選手並びに所属選手の活躍は目覚ましいものであった。札幌陸協登録選手であった小池祐貴選手100m・4×100mR選手(立命館慶祥高校出身→大阪住友電工)、右代啓祐選手(札幌第一高校出身→国士舘大学教員)十種競技、寺田明日香選手(恵庭北高校出身→パソナグループ)女子100mH、日本新記録を樹立、城山正太郎選手(ゼンリン)といった4名の選手は、全国の陸協のなかでは、最多である大会出場選手を輩出し、うれしい限りです。

2020年はいよいよ東京オリンピックが開催されます。「札幌からオリンピック選手を」の目標達成の為に指導者の皆様の一層の努力、指導技術の向上、登録審判員の皆様へは審判技術の研鑽をお願いし、札幌で開催されます「東京オリンピックのマラソン・競歩」が成功裏に終われるようご協力をお願い致します。また、更なる基金活動にご協力をお願い致します。

2020年には札幌陸上競技協会90周年を迎えます。先人の方々が築き上げて来た方々に感謝し、記念式典、記念誌発行を計画し更なる協会発展の為に引き続き変わらぬご支援ご協力をお願い致します。

2019年度を振り返って

専務理事 金子博之

今年度予定されていた29競技会を終了することができました。参加された競技者の皆様、審判員の皆様、後援・協賛頂きました各団体のご協力の賜と心より感謝いたします。

【各大会開催事業】

今年度は札幌陸協主催・主管29競技会、学連審判協力大会8競技会が昨年度のような地震・台風による中止や延期もなく予定通りに開催されました。しかし、大きな自然災害が頻繁に起こる現況から、常に危機意識を持ちながら大会準備等にあたる必要性をあらためて感じているところです。

今年度の南部記念大会はGPシリーズ・アジアパーミットに指定されて実施されました。同じくアジアパーミットに指定された北海道マラソンは東京2020パラリンピック視覚障がい代表選手選考大会として、札幌陸協はもとより、全道の地方陸協にご協力をいただき実施されました。豊平川マラソン、北海道マラソン・車いすマラソン、札幌マラソンには100名を超える学連審判員にご協力をいただきました。特に北海道マラソンでは視覚障がいの部で2つのアジア新記録が樹立されました。

また、今年度より主催大会の医務員について、さっぽろ病院の原先生のご協力を得て、医師・看護師を派遣して頂きました。誠にありがとうございました。

【強化事業と大会結果】

今シーズンも多くの輝かしい結果が残されました。

特に、城山正太郎選手（ゼンリン）が走幅跳で8m40の日本新記録を樹立、世界選手権では決勝に進み11位という成績を残しました。また、御家瀬 緑選手（恵庭北高）が日本選手権100mで高校生として29年ぶりに優勝、インターハイ100mでは2連覇を達成しました。両名の他にも、多くの社会人・大学生・高校生・中学生・小学生が全国大会で上位入賞をするなどの活躍を見せてくれました。

これは、選手、各チームの指導者の努力、強化委員会による強化合宿、強化練習会によるものと感謝し、来シーズンの活躍も大いに期待するところです。

【選手強化育成基金】

2017年度から始めました「選手強化育成基金」は多くのご協力企業や札幌陸協会員の皆様のご協力により、今年度も80万円を超える基金増資を得ることができました。そして、多くの強化選手に助成金をお渡ししました。今後とも札幌陸協所属選手の強化のため基金へのご協力をお願い致します。

【競技場整備】

厚別競技場では、スタンド下通路がコンクリートからウレタン仕様に変更されました。また、11月下旬に予定されていた主競技場検定が工事日程の事情により、来年6月末まで延期されました。（補助競技場については11月下旬に検定が終了）7月中は東京オリンピック サッカーの参加国の練習会場として利用されることになっています。このことから、4月～7月まで厚別競技場（主競技場）での競技会開催ができないことになりました。なお、検定に関わって競技場備品については、要請事項の多くが認められました。

円山競技場では、100mスタート付近のウレタン改修が実施されました。

【創立90周年事業】

記念式典については、2020年12月開催に向けて準備を進めていきます。記念誌については、6月に第1回編集委員会を開催し、2021年度発行に向けて、編集方針等を確認しました。

2020年度は、札幌で東京オリンピックのマラソンと競歩が開催されることに決定されたことや厚別競技場検定延期のためシーズン前半は円山競技場のみでの大会開催となることなどから、本協会の事業を遂行するにあたり、例年にも増してのご支援・ご協力をお願いすることになるかと思ひます。何卒、よろしくお願い致します。

SAPPORO「選手強化育成基金」募金ご協賛 強化指定選手 城山正太郎選手・御家瀬緑選手 大活躍

平成29年度より札幌陸協より東京オリンピック代表選手を合い言葉に、選手強化育成基金が始まりました。今年度は、男子走幅跳で日本新記録を出した城山正太郎選手、女子100mで高校生として日本選手権覇者となった御家瀬緑選手など大きな成果を上げることが出来ました。

ご協賛いただきました各社各位に対しまして、重ねて感謝申し上げます。

<ご協賛企業一覧>

- | | |
|--------------------|----------------------|
| ・株式会社北海道日刊スポーツ新聞社 | ・一般財団法人さっぽろ健康スポーツ財団 |
| ・株式会社セコマ | ・株式会社北海道新聞社 |
| ・株式会社エステム | ・株式会社アールビーズ |
| ・一般財団法人北海道歴史文化財団 | ・奥アンツーカ株式会社東京支店 |
| ・日本体育施設株式会社北海道営業所 | ・株式会社アミノアップ化学 |
| ・北海道ハイテクノロジー専門学校 | ・社会医療法人松田整形外科記念病院 |
| ・六花亭製菓株式会社 | ・ホクレン農業協同組合連合会 |
| ・日本栄養食品株式会社 | ・長谷川体育施設株式会社北海道支店 |
| ・北海道印刷企画株式会社 | ・アシックスジャパン株式会社 |
| ・株式会社ツルハ | ・ミズノ株式会社 |
| ・株式会社レンタコム北海道 | ・株式会社Harapeco |
| ・株式会社プロサポート物流 | ・札幌中央ライオンズクラブ |
| ・株式会社日刊スポーツプロモーション | ・医療法人社団我汝会きたひろしま整形外科 |

順不同27社

<ご協賛個人一覧>

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| ・山田 亨 | ・薄 昇 | ・楯石 英雄 | ・藤石 文平 |
| ・玉井 清史 | ・品田 吉博 | ・志田 幸雄 | ・安岡 行雄 |
| ・志田 光瑞 | ・斎藤 一幸 | ・養嶋 和央 | ・品田 吉博 |
| ・澤田 義盛 | ・世良田弘治 | ・中村富士雄 | ・中村 宏之 |
| ・藤井 英嘉 | ・角谷 信 | ・金子 博之 | ・田川 芳紀 |

順不同20名

令和元年10月23日現在

SAPPORO「選手強化育成基金」助成者一覧

令和元年11月24日現在

	氏 名	所 属	内 容
1	城山正太郎	ゼンリン	男子走幅跳日本新記録 走幅跳日本代表・世界選手権出場、アジア大会第5位
2	御家瀬 緑	恵庭北高校	日本選手権 100m優勝 高校総体 100m優勝・走幅跳第7位
3	京谷 萌子	北海道ハイテクAC	日本選手権 走高跳第2位
4	芝田 愛花	環太平洋大学	日本選手権 100mH第6位 日本学生対校 110mH第5位
5	林 理紗	立命館大学	日本選手権 400mH出場 日本学生対校 400mH第6位
6	宮園 彩恵	国士舘大学	日本学生対校 100m第2位・200m第3位
7	ローレンス・グレ	札幌学院大学	日本学生対校 5000m第4位
8	馬場 友也	北海道ハイテクAC	日本選手権 100m出場
9	島田 雪菜	北海道ハイテクAC	日本選手権 100m出場
10	玉置菜々子	国士舘大学	日本選手権 100mH出場
11	村尾 宥稀	明治大学	国体 成年10000mW第4位
12	石堂 陽奈	立命館慶祥高校	日本選手権 100m第7位 高校総体 200m優勝・100m第2位 国体 100m第3位・4×100mR第4位
13	ボンドレオ将	立命館慶祥高校	高校総体 110mH第7位
14	鈴木 里沙	北海高校	国体 100mH第4位・4×100mR第4位
15	長野 超	立命館慶祥高校	高校総体 4×100mR第5位
16	水口 海	立命館慶祥高校	高校総体 4×100mR第5位
17	桑島 和輝	立命館慶祥高校	高校総体 4×100mR第5位
18	井沢 真	立命館慶祥高校	高校総体 4×100mR第5位
19	上西 彩未	札幌市立新川中学校	全国中学 1500m第4位

第7回北海道ハイテクAC杯陸上競技選手権大会が開催されました

～ご参加いただいた皆様、本大会ご協賛各社様、大会関係者様、心より感謝申し上げます。～

令和元年9月8日(日)に札幌市円山陸上競技場にて、気温30℃をこえる晴天のもと、今年度も小学生種目からマスタース種目までのカテゴリーによって第7回目となる大会を開催し、すべてのカテゴリーのアスリート育成に寄与する大会となりました。

大会では、今年度、日本選手権女子100mを制した御家瀬緑選手(恵庭北高)が高校・一般女子100mに出場し、11秒46の今期最高タイムで優勝し、最優秀選手に選ばれました。また、高橋直也選手(北海道栄高)が高校・一般男子100mと200mの2種目を制覇しました。

なお、今大会は、天候にも恵まれ、計18種目で大会新記録が生まれた大会でした。大会を終了に際しまして、多くの皆様にご参加及び大会運営にご協力をいただき誠にありがとうございました。



(志田幸雄会長〔一財札幌陸協〕挨拶)



(中学女子100m A決勝)



(高校・一般女子100m A決勝)



(高校・一般男子100m A決勝)



(御家瀬緑選手(恵庭北高)最優秀選手)



(表彰者全体写真)

2018年度 一般財団法人札幌陸上競技協会 栄章授章式

令和元年9月1日（日）に開催された第84回札幌陸上競技選手権大会において2018年度の当協会栄章受賞式が札幌市厚別公園競技場にて行われました。

表彰式に参加頂いた方それぞれ、功労章・審判功績章・指導者章・特別章・優秀選手章・新記録章・奨励選手章を受賞されました。受賞に際して、大変おめでとうございます。益々のご活躍のことを当協会といたしましては、お祈り申し上げます。



記録室 国際大会・全国大会入賞者

■第23回アジア選手権

(ドーハ・カタール 4/21~24)

- 男子走幅跳 第5位 7m78(+0.5)
城山正太郎 (ゼンリン)

■2019日本学生陸上個人選手権

(神奈川・Shonan BMW スタジアム平塚 6/7~6/9)

- 女子200m 優勝 23.89(+1.9)
宮園 彩恵 (国士舘大3)
○男子400m 第3位 47.54
吉田 達也 (東海大北海道3)
○女子100mH 第3位 13.66(-0.5)
芝田 愛花 (環太平洋大1)
○男子5000m 第6位 14:13.05
NGURE・Lawrence (札幌学院大2)
○女子400mH 第8位 1:02.54
林 理紗 (立命館大4)

■第72回インターハイ (沖縄・沖縄総合8/4~8/8)

- 女子100m 優勝 11.51(-0.1)
御家瀬 緑 (恵庭北3)
○女子200m 優勝 23.67(+1.3)
石堂 陽奈 (立命館慶祥2)
○女子100m 第2位 11.56(-0.1)
石堂 陽奈 (立命館慶祥2)
○男子110mH 第7位 15.49(-3.0)
ホンドレオ将 (立命館慶祥3)
○男子4×400mR 第5位 3:18.72
立命館慶祥
長野 超 (立命館慶祥3)
水口 海 (立命館慶祥3)
桑島 和輝 (立命館慶祥3)
井沢 真 (立命館慶祥2)
○女子走幅跳 第7位 5m91(+2.0)
御家瀬 緑 (恵庭北3)

■第103回日本選手権 (福岡・博多の森 6/27~6/30)

- 女子100m 優勝 11.67(+0.6)
御家瀬 緑 (恵庭北高)
○女子走高跳 第2位 1m77
京谷 萌子 (北海道ハイテクAC)
○女子100m 第8位 11.89(+0.6)
石堂 陽奈 (立命館慶祥高)



女子100m優勝 御家瀬緑選手 (恵庭北高)



女子200m優勝 石堂陽奈選手 (立命館慶祥高)

■第35回全国小学生交流(神奈川・日産 8/10)

- 男女混合4x100mR A決勝
第6位 52.14 新札幌陸上クラブ
岩野 美心(6)
谷田 煌里(6)
森江 渚早(6)
溝延 亘(6)

■第7回全国高校選抜(大阪・長居第二8/31~9/1)

- 女子600m 第3位 1:33.99
西澤 汐梨(札幌月寒3)
○男子600m 第4位 1:20.44
井戸 優希(北海3)
○女子スプリント・トライアスロン(60m-150m-300m)
第6位 2998点(7.59-18.00-40.37)
工藤聖莉奈(北海2)
○男子300mH 第7位 37.32
水口 海(立命館慶祥3)

■第67回全日本実業団対抗選手権
(大阪・ヤンマースタジアム長居 9/20~9/22)

- 女子100m 第2位 11.87(+0.9)
島田 雪菜(道ハイテクAC)
○女子200m 第8位 24.14(+1.8)
島田 雪菜(道ハイテクAC)
○女子走高跳 第6位 1m70
京谷 萌子(道ハイテクAC)

■第74回国民体育大会(茨城・笠松 10/4~10/8)

- 少年A女子100m 第3位 12.03(-1.5)
石堂 陽奈(立命館慶祥高2)
○女子4x100mR 第3位 45.34
北海道
鈴木 里沙(北海高1)
宮園 彩恵(国士舘大3)
石堂 陽奈(立命館慶祥高2)
福島 千里(セイコー)
○成年男子10000mW 第4位 40:54.48
村尾 宥稀(明治大3)
○少年B女子100mH 第4位 13.90(+1.6)
鈴木 里沙(北海高1)

■第1回Athlete Night Games in FUKUI
(福井・福井県営 8/17)

- 男子走高跳 第1位 8m40(+1.5)
城山正太郎(ゼンリン) 日本新

■第46回全日本中学選手権
(大阪・ヤンマースタジアム長居 8/21~8/24)

- 女子1500m 第4位 4:26.97
上西 彩未(札幌新川3)

■第88回日本学生対抗選手権
(岐阜・長良川 9/12~9/15)

- 女子100m 第2位 11.78(+0.7)
宮園 彩恵(国士舘大3)
○女子200m 第3位 24.31(-1.6)
宮園 彩恵(国士舘大3)
○男子5000m 第5位 13:51.54
ローレンス・グレ(札幌学院大2)
○女子100mH 第5位 13.60(-0.4)
芝田 愛花(環太平洋大1)
○女子400mH 第6位 1:00.30
林 理紗(立命館大4)

■第35回U20日本陸上競技選手権大会
第13回U18日本陸上競技選手権大会(広島・広島広域10/18~10/20)

- U20女子100mH 優勝 13.45(-0.5)
芝田 愛花(環太平洋大1)
○U18男子200m 優勝 21.32(-0.5)
井沢 真(立命館慶祥高2)
○U18男子100m 第2位 10.64(-0.4)
井沢 真(立命館慶祥高2)
○U18女子走高跳 第2位 5m82(-1.0)
松田 奈夏(立命館慶祥2)
○U18男子走高跳 第3位 7m28(-0.4)
伊藤 駿(恵庭南3)
○U18女子200m 第4位 11.95(+0.6)
石堂 陽奈(立命館慶祥2)
○U20女子800m 第5位 2:11.75
西澤 汐梨(札幌月寒高3)
○U18女子走高跳 第4位 1m68
水口 爽(立命館慶祥1)



男子走高跳日本新記録樹立 城山正太郎選手(ゼンリン)

※写真は、報知新聞社様よりご提供

2020東京オリンピック マラソン・競歩種目 札幌移転開催決定！

2020年東京五輪のマラソン・競歩の開催地について、国際オリンピック委員会（IOC）と国、東京都、大会組織委員会の4者トップ会談が11月1日に行われ、札幌開催が正式に決まりました。

突如、10月16日にIOCが「マラソン・競歩種目を、1972年冬季五輪の開催地だった札幌市に移すことを計画している」と発表され、翌日10月17日、カタール・ドーハで開かれた各国オリンピック委員会連合（ANOC）総会でIOCバハ会長がスピーチにおいて、「2020年東京五輪のマラソン・競歩種目の開催会場について、札幌に移すことを決めた」と発言し、「暑さ対策」を理由にマラソン・競歩を札幌に変更する方針を示したことで急展開し、最終的に11月1日、正式に札幌開催が決定したという流れでした。

当協会としても地元でのオリンピック開催であり、全面的に大会成功に向けて大会組織委員会・札幌市・北海道に今後協力をしていきたいと思えます。

【スポーツ報知記事 2019年10月18日】

東京五輪マラソン&競歩、札幌開催決定的 で地元関係者期待「子供たちに夢」「陸上の活性化」



夏の北海道マラソンや秋の札幌マラソンで大会運営の中軸を担ってきた札幌陸協の志田幸雄会長は「札幌で五輪陸上競技の開催は夢のようで、非常にうれしい。北海道マラソンなどで培ってきたノウハウを提供、協力し成功につなげたい」と話した。同会長は国士舘大在学中の1964年に東京五輪・フェンシング競技の補助役員を務めた。「華やかな雰囲気は今も記憶にある。札幌開催で北海道の子供たちにも夢を与え本道陸上の活性化につながれば」と希望した。

男子長距離の元日本記録保持者で、ホクレンなどの監督も務めた布上正之さんも「五輪は自分も目指した夢舞台。会場変更で選手も戸惑うかもしれないが、暑さなど健康管理も考え、選手ファーストはいいこと。私も間近で観戦したい」と期待する。

18日に全道高校駅伝（北見）に出場する札幌日大女子の工藤裕行監督も「宿泊、セキュリティなど準備も大変でしょうが、是非成功させてほしい。ジュニア層の普及、強化にもつながると思います」。札幌山の手高男子の梶山一樹監督も「ラグビーW杯同様、一生に一度もの。北海道から将来の五輪代表が生まれるきっかけになってほしい」と熱望した。（小林 聖孝）

(<https://hochi.news/articles/20191017-0HT1T50242.html>より)

スポーツ (9) 8版 ○ 日刊スポーツ 2019年(令和元年)8月18日 日曜日

あと341
2020
東京五輪

桐生の9.98スタジアムで目4発狂った競技場関係者

あと341
2020
東京五輪

桐生の9.98スタジアムで目4発狂った競技場関係者

高山びっくり
今季世界9位

13.25
100m高欄
寺田19年ぶりの

13.00
女子100m高欄
寺田19年ぶりの

13.00
女子100m高欄
寺田19年ぶりの

北京8秒34
ロンドン8秒31
走幅跳 3 リオ8秒38

No 8M40

安定した
絶好の風

城山正太郎

福井新聞社

城山正太郎

城山正太郎

北海道で成長

ベスト39伸びず24歳東京の新星

城山正太郎

城山正太郎

城山正太郎

27年更新なしから 橋岡日8秒32の

中距離の長さが約9秒。曲バスの、ルイス・まさに「跳、人だね」

城山正太郎

城山正太郎

城山正太郎

40分後再び更新 今季世界2位「まさか」とは

新選手を優勝を逃し負けては寂しい。でも悔しい。自分の成長は、レベリングの成績を伸ばす。コーチの配給を上回る。もう、27年更新なしから、橋岡日8秒32の

城山正太郎

城山正太郎

城山正太郎



御家瀬29年ぶり高校生女王

陸上日本選手権

◇第2日◇28日◇博多の森陸上競技場◇女子1000m決勝

11秒67土井破る

女子1000m決勝で昨年の高校総体覇者の御家瀬(恵庭北高3年)が90年ぶりに(姫路商)以来29年ぶりの高校生優勝を果たした。11秒67(追い風

0・6秒)で今季日本ランク1位の2位土井杏南(23)JALを0秒05差でかわした。初の日本一の座をつかんだ18歳は「集中していた。(11秒)6台を狙っていたので良かったこと喜んだ。改良を続けるスタートで土井に続く全体2番目のリアクションタイム(号砲への反応)をマーク。上体を起こすと、1歩1歩地面を強く蹴り上げ、滑らかに加速した。「自分のレーンだ



女子1000mで優勝し、花束を手に笑顔の御家瀬
「自分を見て走った」。中盤では高校日本記録(11秒43)を保持す

る土井に猛追されたが、冬季練習で磨いたスピードは最後まで落ちずトップでゴールに駆け込んだ。
レース後には初出場で11秒89の8位に入った石堂陽奈(立命館慶祥高3年)と抱き合った。1000mの日本記録保持者の福島千里(31)セイコーが欠場した日本最高峰の舞台で、北海道女子スプリント界の新星が輝きを放った。

(令和元年6月29日付け記事 日刊スポーツ新聞社様ご提供)

北海道

移籍小野ラストゲーム
チャナ勝利誓う
 コンサドーレ札幌は7日、札幌・宮の沢で練習を行った。8対3、4対4、10対10で攻撃の確度を練り返した。MFチャナティップ（25）は、先達として慕う小野伸二（39）のJ2琉球移籍前ラストゲームとなる10日ホーム浦和戦へ、思いを強くする。「寂しい。札幌での最後の試合だから、勝ちたい」と、はなむけの勝利を誓っていた。

石堂初V

女子200

福島超え道高校新23秒67



石堂初（20）は、福島超え道高校で女子200メートルの個人種目で初勝利を挙げた。タイムは23秒67で、北海道記録を更新した。

自然体のいじられキャラ
 引きつける魅力
 御家瀬は競技後でも変わらず、胸の内に喜怒哀楽の感情があふき出ている。結果にかかわらず記者の目を見て褒められる。取り乱さず、自然体でいじられる。そんな天然の印象は、御家瀬の個性。昨午11月に恵庭北の生徒が修学旅行で泊まった今帰仁村の民宿「よしもと」で、元

◆スケルトンで22年北京五輪を目指す男子3段跳びの白井貴将（総体初出場で予選敗退に）
 雲間気だとか、強い選手を見て勉強になった。収穫のあるインターハイだった。

◆練習参加 プラジール人FWルーカス・マセード（22）が練習に参加した。17、18年いわきFC、今年6月までブラガチーノ（ブラジル）所属。父は元ブラジル代表で、16～17年札幌所属のMFマセードは叔父と、

な朝の、人より早く起きて「アップします」といって民宿前の芝生で体を動かしていました。非日常の環境に身を置いても、ルーティンを崩さない姿があった。重宝のかるる日100

御家瀬（恵庭北3年）に敗れた。元々、電光石火で勝負を見て両手を突きた。優勝できたこと、本心でうれい。今までやっていたことを全て出し切れた。同校初の個人種目優勝を果たした2年生女子王の笑顔がほしかった。

御家瀬は立命館大学に進学した。高校は立命館大学付属、1年時は全国大会常連の白井貴将（37）と二人三脚で練習を積んできた。単調で苦しい冬季練習を終えた3月には日本選手権100位3位の青山華依（2年）

（令和元年8月8日付け記事 日刊スポーツ新聞社様ご提供）

計 報

この度、当協会にご功績のあった方がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

参 与 高 橋 國 男 様 8月30日御逝去

発行 一般財団法人札幌陸上競技協会
 広 報 委 員 会

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1番5号
 札幌市中島体育センター内
 電話・FAX : (011)532-2471
<http://jaaf-sapporo.jp/>